

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290800089		
法人名	株式会社 芳清		
事業所名	すいせんの郷		
所在地	島根県益田市西平原町534-6		
自己評価作成日	令和3年9月17日	評価結果市町村受理日	令和3年11月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和3年10月11日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

里山の展望が広がる集落の中に位置し広い敷地内では毎日、全員で外気浴をしながら水分補給や体操、散歩を日課に取り入れ生活リズムを整えている。洗濯、炊事、入浴、手洗い等に使用する洗剤は合成洗剤を使わず、重曹やクエン酸等、誤って口に入っても安全なものを使用している。行事には季節感を感じ楽しんで頂けるようスタッフが工夫し企画を考案している。誕生日には個々の担当が寄り添い希望の馴染みの場所への外出、外食は定着している。近隣の介護福祉事業所との交流と情報交換し資質向上に役立っている。人生経験豊富な職員で入居者様の不安や心配事に寄り添い、隣接した畑で季節ごとの野菜栽培を共に行い収穫加工して僅かながら地域へ配布したりしている

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍で今は感染予防に全力を挙げている。普通の暮らしで馴染みの風景に囲まれ、穏やかに生活が出来、利用者が不安にならないよう日々コミュニケーションを図りながら支援している。毎日の生活の中に日光浴、外気浴、散歩を取り入れ体力や免疫力をつけるように頑張っている。利用者は事業所内の様々な催し物や季節毎の行事の納涼会、ミニ運動会、節分、雛祭り等に意欲的に取り組み楽しんでいる。近くに駐在所もあり近隣とも親しい関係を築いている。職員研修はZOOMで参加したり動画配信等新たな学習方法で多くの学びを得ながら成長に繋げている。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿った行動指針を掲示し、新入職員には配布して周知するほか、職員会議や研修の場で全員で唱和し振り返り、実践へつなげている。	掲示や唱和を行い常に意識づけをし、利用者の状況に即した支援が実践できているか話し合い取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣住民からの花や野菜を頂いたり近隣の介護事業所との交流、毎年、全員で千羽鶴を折り、夏場に広島へ送っている。	親族がわずかな時間でも保育園の帰りに孫をつれて顔を見に寄ったり、参歩の時近所の人が庭先の花を見せてくれたり、声を掛けて貰っている。野菜や果物の差し入れもある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	馴染の美容室への外出や近隣への散歩時の住民との会話の中でさりげなく発信している。定期で発行している施設便りを公民館を通じて配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議では近隣住民、自治会役員、近所の介護福祉施設の代表の方に日頃の細かな施設の状況報告し地域の情報や意見を頂いている。	会議開催は出来ないが書面で利用者の状況や活動を報告している。自動車専用道路の建設現場が目前にあり騒音振動に対する行政への働きかけに協力して貰ったり、指導して貰い改善に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	隔月の運営推進会議の開催時に保険者である益田市高齢者福祉課の担当者に毎回、運営状況の報告と行政からの情報や意見を頂いている。	情報提供や助言を受けてコロナワクチン接種や健診等の取り組みを行った。運営推進会議は書面なので直接話す機会が減っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体的拘束等適正化のための指針を作成し全職員に配布している。定期的な身体拘束防止研修を行っている。3つのロック(スピーチ・フィジカル・ドラッグ)に関する研修について個別の事例に沿って検討	具体的な行為を理解し、センサーを付けずに過ごす工夫を職員で話し合っている。スピーチロック等研修会で再確認し合い、事例に沿って検討し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し伝達講習や定期的な虐待防止自己点検シートやアンケートの実施を行い習熟度の把握や結果に沿って職員会議の場で検討。行動指針にも明記している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の家族の希望で成年後見制度の利用者は複数あり、定期的な後見人の面会時とともに学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前の見学の際に説明、また入退去時には直接または、電話等での意見や質問にも対応し必要なことは繰り返し説明させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会には事前のアンケートでの意見聴取や面会時に書いて頂く様式を作って記入いただいている。また意見箱の設置、また契約時の書類に苦情申し立て機関の明記をしている。	アンケートの実施や「すいせんの郷だより」の送付、電話でのやり取りで家族との関係を大切にしている。県外に住んでいる家族からはコロナ禍でも「安心している」との感謝の声がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議での話し合いや会議後の振り返りの様式に記入する。業務改善提案の様式を作りいつでも意見提案できる環境を設けている。	日常の会話の中で細かく些細の事でも報告し何でも話し合える職場の雰囲気がある。意見や提案を運営に反映させ段差解消や環境の改善に繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者と連絡をとり環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に望む仕事の把握、内外の研修の受講。年に一回は自己評価と代表者による評価を行う。また資格習得のための支援も行う。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者との情報交換や業務の工夫等の情報交換を行い、ケアの質向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の説明時に不安や、要望の確認を行い意思の確認を重ねる。また入居初期には24時間の細かな状況把握の様式で職員全体で情報交換しながら必要なケアを提供し密に関わる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面接時に認知症についてのレクチャー、希望者は体験入居で実際の生活や雰囲気を見て頂く。初期は頻回に家族の状況に合わせて様々な媒体で様子を報告		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当施設の機能や利用の範囲の説明、地域の福祉資源を紹介。家族自身のケアのための相談先やパンフレットの紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活歴から何が出来るかを一緒にやり乍ら出来ない部分のみを、さりげなく支援、出来る事を奪わない。特定者に集中する事なく、それぞれ、できる事を食事の盛り付けや片づけ、洗濯物等分担して行う		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	他科受診対応や衣替えの時期に入れ替えの声掛け、また家族からも不穏状態の時はいつでも電話をしてほしいと複数の家族と本人で昼夜問わず会話している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで利用していた馴染みの美容院への定期的な利用や生まれ育った所や菩提寺への外出、親戚との手紙や電話での交流を日常的に行っている。	馴染みの人の来訪は今は控えて貰っているが、美容院に行ったり自分で建てた墓に参ったり生家を見にドライブに出かけるなど支援している。携帯電話で知人、友人と交流をしている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が関わり合いのきっかけ作りを行う。同時に波長や肌の相性の状況を把握して摩擦を回避したり認知症状にあわせ共同作業の機会作り作業分担や役割意識をもってできる工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、ご家族とその後の状況をお聞きしケア上の工夫の助言や、家族の心理的側面の支援を電話や手紙、又は直接会う機会に行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向調査票へ家族が記入、毎年家族へのアンケート行う。本人からの日常会話の中からや生活歴を考慮して把握している	日々の関わりの中で選択肢を多くして声を掛け思いを聞き出している。子供の頃から好物だったイチジクが食べたいとの要望を受け止めおやつに提供して満足な顔を見る事が出来た。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	親族からの聞き取りやサービス関係者から状況聴取、アルバムを見ながらの会話の中から御本人に聞き取り情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	前任者からの情報収集と当初は24時間の状況把握の為に個別記録をし全体で共有。個別の有する能力を発揮できる様に生活意欲や出来る事の継続を意識している。その後検討し乍らアセスメントしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	把握した情報を職員会議での話し合い、また家族からの話やヒントを反映して担当者で現状を検討してケアの方向を共有。ご本人に意思確認し毎月の会議で細かな変更をしながら行っている	家族からの電話や手紙で把握した情報を職場会議で話し合い、利用者がより良く暮らせる様に現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個別生活記録へ本人のつぶやきを記録し、日誌での引き継ぎ事項の伝達を行い一方で毎月の会議の際に検討事項を話あっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の生活の中からでた言葉を記録し把握する事で個別の外出につなげたり、している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所との交流、施設入口での畑の作物作り、共同作業で作った加工品の文化祭での販売、施設便りの地域へ広報とともに回覧。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な月2回の往診と常時オンコール対応で連携している。認知症専門病院への通院の支援を定期的に行い情報提供し認知症薬の調整行う。	利用者や家族の納得したかかりつけ医となっている。往診時には生活の様子、体調も伝えている。休日や夜間の緊急時にも相談出来る関係を築き状況によっては専門医への紹介を貰い家族にも同行して貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日ごろの食事や排せつの状況、バイタルサイン等の報告連絡相談。オンコール対応で連携しており体調不調時は状態の報告や主治医への連絡と受診の対応や判断、指示を受けて訪問看護師とともに支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院の連携室の担当相談員と連絡を随時情報交換し適宜、家族への連絡相談し合っている。主治医とは定期の往診時にも報告相談を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に尊厳生の指定書や重度化の指針及び看取りの指針を説明し記入いただく。同時に家族に意向調査を行う。体調不調時には主治医、家族、医療職と相談し今後のケア方針の合意形成を図る機会を設け外部訪問看護事業所との連携もしている	入居時に事業所としての終末期取り組みを説明し意向を確認している。重度化した場合関係者と話し合い利用者、家族の思いに沿った対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医と看護師とは24時間オンコールで連絡体制をとっており、指示を仰ぐことが出来る。心肺蘇生法や応急手当の研修会を職員全員で受けている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全職員対象で年2回の避難訓練、夜間対応や地震を想定した訓練を行っている、近所の住民や駐在所に呼びかけ。連絡網は近隣4軒のお宅にも連絡するシステムとなっている。	地域の協力体制も整っているが今回は消防署に相談の結果台所から出火想定で利用者参加の自主訓練を行った。備蓄品や避難用具の点検もしたが訓練のやり方がマンネリの傾向にあり職員で話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	敬語で話しかけ依頼形で意思決定ができるよう対応。本人の同意を得てからケアを行っている 排泄、入浴介助は男性、女性職員の希望に沿って支援している	接遇や法令順守の内部研修を受け人生の先輩として敬う気持ちで接し、勝手に利用者の持ち物を見たり、個人情報是他言しない様に気をつけて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活歴の把握と共に日々の中で個別のケア時に訪室する等で思いを傾聴する。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩や体操を状態に合わせて無理強いをせずに行っている。食事時間については時間の許す限り希望に沿って柔軟に行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の衣類は職員と共に準備、季節物の入れ替えを共にしている。居室の髭剃り機の点検や乳液等を絶やさないう補充に簡単な化粧用具を置き自身で身支度できる様、配慮している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や、盛り付け配膳を方法を示し乍ら一緒にいき食器洗いや拭きを行う。また、季節の梅の仕事や季節に合わせたおやつ作り、畑に植えた野菜の収穫後は、共に調理や加工を行っている	おはぎ、餃子、お好み焼き等職員と一緒に作り、季節ごとに干し大根作りやラッキョ漬け等を楽しんでいる。畑で収穫した野菜を使った料理や利用者の希望を取り入れた献立を作り季節や旬を感じられる様に工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食欲や体調に合わせて量の調整や好みの物を、個別にお出しし嚥下能力に合わせてとろみ剤の使用や寒天茶を用意、飲み易いカップやスプーンの形状を変更したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、ご自身で困難な方は介助し自力で可能な方についても観察し変化があった際は、歯科往診で対応。その後も定期的に点検清掃をする。義歯の方も定期点検。毎日洗剤で清潔保持。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録や水分摂取量の記録で個人のパターンの把握を行い、自ら発信できない方は頃合いを見てお連れしオムツ使用であった複数の方が綿パンツで快適に過ごせるようになってきている。	排泄パターンを把握して利用者に合わせて対応している。その人にあった下着の着用を検討し取り組んでいる。夜は廊下やトイレ室内にもセンサーライトを設置して安心して排泄出来る様に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天製品の多用(ドレッシング、寒天ゼリー、ご飯に混ぜ)寒天茶を飲用し繊維質の摂取量を増やす。毎日ヨーグルトや果物で便秘予防。毎日AM.PM2回の散歩と外気浴。毎日の体操に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気分が向かないときは無理強いせず、手足浴と清拭を行っている。アロマ効果のあるエッセンスオイルを使用し落ち着いた気分で入浴出来る様に配慮して湯温を個々に合わせて調整している。	本人の希望を聞きながらゆっくり入浴出来る様に支援している。入浴を好まなかったり怖がったりする利用者にはミストの全身シャワーと足湯で対応している。同性入浴介助を希望する人には希望に応じている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	季節の寝具類の交換、シーツの洗濯を行い気持ちよい就寝への配慮。年齢や体力、日中の活動量によって、午睡や休息時間をそれぞれ確保するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	症状や状態に合わせて主治医や看護師、薬剤師へ相談しながら与薬方法や量の調整を行っている。誤薬防止のためのダブルチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合わせた能力維持の為に洗濯物干しや布巾たたみ、掃除、縫い物を得意とする方に縫い物を。好きなジグソーパズルを日課としたり、親族からの嗜好品の差し入れの受け入れをしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日、施設周囲での外気浴と散歩を支援し、馴染みの美容院へ定期的にパーマに出かける。菩提寺や生家周辺、地域内の砂浜に散歩、馴染みの場所や思い出の場所へ感染対策をしてドライブに出掛けている。	家族との外出や外泊は出来ないが、利用者に何処へ行きたいかを聞き外先を決める様にしている。午前午後の散歩や畑仕事、ドライブ、海辺の散歩、初詣、桜見等、戸外での活動は多い。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的には、行わない。必要な時は立替払いをしている。手元に、ないことで不安になる方について少額を居室に置くことを家族と確認して精神的安定に繋がる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	能力に応じて、親族からの手紙に返事を書いて投函、携帯電話を自室にあり直接電話したり親族のことが心配な時その場で電話が出来る様に配慮している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房、天井にファンを設置し温度管理。共用空間に季節の花を活けたり、カーテンや間接照明で光の調整。リラックスできる環境音楽を流すアイランドキッチンで季節の調理の香りが漂い落ち着ける空間づくりに配慮している。	季節ごとの絵を描いたカレンダーや、ドライブに出掛けた時拾ったイガ栗やどんぐりを置き、壁には月うさぎ、案山子等季節感のある飾りをしている。廊下のソファでは思い思いのスタイルで寛げる様にしている。除菌消毒処理の徹底を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事は相性や波長が合う方と共にできる配慮。パブリックスペース4か所にソファや窓辺、廊下の日向5か所に椅子と一カ所マッサージ椅子、それぞれの場所にセミファブリックスペースを確保している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や食器、アルバム等を持ち込み。個室に畳とテーブルを設け日課の日記を記入。愛犬の写真をベッドサイドに置く、仏壇に毎朝、お供えをする等自宅での環境の維持工夫している。	自分の好みの置物、作品を飾っている。入居時に持参した化粧品で出掛ける時お化粧したり、ホールに出る際には眉を整える利用者もいる。化粧品がなくなれば同じものを買って出掛けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	できない部分だけ職員が準備して包丁や鋏、爪切り、お針箱も危険回避し乍ら使ったり、書棚に好きな時に出来る様にいつでもパズルや新聞や書籍をおいている		